

新刊紹介

1) 水越武写真集「熱帯の水河」

山と溪谷社，東京，2009 年 12 月 5 日発行，192 ページ，5,400 円
 解説 岩田修二「赤道高山の縮小する水河」(146-173 ページ)
 ISBN978-4-635-55002-4



2) 高木誠写真集「水河の消えた山」

東京新聞，東京，2010 年 3 月 31 日発行，143 ページ，2,857 円
 解説 岩田修二「槍・穂高連峰と上高地の自然史」(122-132 ページ)
 ISBN978-4-8083-0929-9



山岳写真家が撮影した写真は，写真家がさまざまな想いを込め被写体の一瞬の姿を捉えた「山岳の芸術写真」である。山岳の芸術写真に，科学的な解説が加わると，その相互作用で奥行きのある豊かな世界が広がる。山岳写真家と地球科学者のコラボレーションの好例とも言える二つの山岳写真集が，最近相次いで刊行されたので紹介する。消え行く水河を抱く熱帯の山岳と，すでに水河が消えた日本の中部山岳の写真集で，いずれにも，岩田修二氏が水河学，気候学，地形学，生態学の最新の知見に基づく優れた解説を寄せている。山岳写真と科学的な解説が，価値を高めあって優れた出版物となっている。

最初に紹介するのは，国際的山岳写真家として活躍する水越武氏の写真集「熱帯の水河」である。赤道直下のアフリカ，南米，ニューギニアとボルネオの 3 地域の水河が，この写真集の主演である。しかし，この写真集は高度を軸にした 5 つの章から構成されていて，サンゴ礁やマングローブの「海岸線」の章から始まり，「低地熱帯雨林」「山地熱帯雨林」と熱帯の多様で豊かな生物相を，「高山帯」の章では不思議な進化をした高山植物群を，そして第 5 章「氷雪帯」で山頂部の水河に至る。見事な写真が，5000 m もの熱帯の高度帯の中に神々が作った神秘的な世界に見る者を誘う。

写真の巻末に 27 ページを割いて「赤道高山の

縮小する水河」と題した岩田氏の科学的な解説がある。熱帯に水河が存在する理由を気候学的に説明するとともに，植生や地形の特徴も合わせて記述している。また，気候の変化と水河の変化の関係を分かり易く解説した上で，過去 100 年程にわたる熱帯 3 地域の水河の縮小を，さまざまな文献を引用する形で詳述している。自然地理学者の著者の真骨頂は，信頼できる地形図のないこうした地域の水河の形状の変化を示すのに，Google Earth の 3D 画像情報に基づいて必要な縮尺の地形図を自ら作成していることである。最後に，19 世紀半ばからの熱帯の水河の急激な規模（面積）縮小を，グラフにまとめ，近年の規模縮小が加速化していること，面積がゼロ，すなわち水河が消滅するのは，IPCC 第四次評価報告書を引用する形で，数十年後と述べている。また，水河の消滅は，水河からの融け水を水源としている地域で，乾燥化による干害や旱魃が大きな問題になるであろうと警告している。

次に紹介するのは，高木誠氏の写真集「水河の消えた山」である。この写真集は，中部山岳の槍・穂高連峰から上高地に至る梓川源流に残る水河期の遺産を 12 年余かけて撮影した 85 点の珠玉の写真集である。高木氏は，山岳写真家田淵行男 (1905-89) の偉業を記念して創設された田淵行男賞の第 1 回受賞者であるが，本業は材料工学を専

門とする愛知工業大学教授である。写真集は、「氷河の記憶」「岩峰 大地の彫刻」「カールを彩る生命」「源流の水食谷」「原始が息づく川」から構成されている。槍・穂高連峰から上高地にかけての日本を代表する山岳景観を、高木氏は見事に写真に捉えている。

岩田氏の解説は、槍・穂高連峰と上高地谷の自然史を、本人の研究成果を含む最新の知見に基づき、第四紀という時間スケールの中で実に明瞭にまとめ、高木氏の写真に奥行きを与えている。解説に掲載した豊富な地形図や模式図等が、この地域の自然史の理解を助けている。

槍・穂高連峰が、176 万年前の大規模な火山活動でできた凹地であるカルデラ内の岩体が隆起、浸食され形成されたとの近年の研究成果は、興味を引くものである。その後、60 万年前頃の焼岳火山群の火砕流が、飛騨側に流れていた梓川をせき止め、その流れを信州側に変えたこと、氷期サイクルの気候変化の中で形成された氷河が、カール、U 字谷、モレーン（堆石）といった氷河地形を遺したことを述べている。特に、最終氷期、こ

の地域には、五百沢智也氏が涸沢期、横尾期と呼んだ新旧 2 回の氷河拡大期があったことを紹介している。こうした氷河地形とともに、この地域に見られる寒冷地形として、岩石氷河、崖錐、構造土などについても記述している。

解説の最後は、上高地と北海道札内川にだけ生育し、氷期の自然遺産とも言えるケショウヤナギについて、自身の研究成果を踏まえ、ページを割いている。国立公園特別保護地区や特別名勝特別記念物として保護されて来た上高地のその流域では、「防災」のためにさまざまな土木工事が行われ、梓川沿いのケショウヤナギなどの貴重な河畔林生態系が消滅の危機に瀕していることを憂い、『「ヤナギの消えた川」というタイトルの写真集の解説を書くのはごめんである。』と結んでいる。

いずれの写真集も、優れた写真と解説が魅力である。山岳、氷河、植生、気候変動などに関心のある人に一読をお勧めしたい。

(国立極地研究所 藤井理行)

(2010 年 5 月 30 日受付)